

こ しんにちは つるおか

No. 111

日々の積み重ね

おおいわと よしゆき
大岩戸 義之 さん



力士。近畿大学4年生のときに全国学生相撲選手権大会で優勝し「学生横綱」を獲得するとともに、主将を務めた団体戦も制し2冠に輝く。大学卒業後、八角部屋に入門し2004年3月場所で初土俵を踏む。最高位は東前頭16枚目。子ども夢スポーツフェスティバルin鶴岡の特別ゲストとして来鶴。鶴岡市出身。

私は小学4年生で相撲を始めました。きっかけは、私の知らない間に両親が鶴岡相撲教室への入門を申し込んだこと。自分の意思とは関係なく相撲を始めることになりましたが、やってみてとても楽しいと感じました。当時から体が大きかった私。走ったり、ボールを投げたりする他のスポーツでは、大きな体がハンディキャップになることが多かったのですが、相撲では強みになった。そのことがうれしくて好きになり、小学校の卒業文集に、将来の夢を「学生横綱になる」と書くほど夢中になっていました。

相撲教室の稽古は、元力士が指導者ということもあり、練習でできたこぶが硬くなるほど、ぶつかり稽古を繰り返すなど、今思い返しても本格的で厳しいものでした。小学生の私にとって、とても辛いものでしたが、一日も休まず通いました。暑い日も、寒い日も、休むことなく厳しい稽古に耐えた経験は自信にもなりまし、忍耐力も培ったと思います。



子ども夢スポーツフェスティバルin鶴岡の様子（10月11日／小真木原公園）

痛く、苦しい稽古。そんな稽古を毎日続けると、それまで全く歯が立たなかった相手と少しずつ勝負できるようになり、やがて追い付き、追い抜ける。どんどん力が付いていくことを実感できました。「稽古は辛くて嫌だ。でも楽しい」。矛盾していますが、日々打ち込みました。その積み重ねが、夢だった「学生横綱」につながったと思いますし、力士になれた礎だと思っています。ですから、今でも毎日稽古することを大事にしています。いつでも100%の力を出し切ることが理想ですが、なかなかそうはいかないので、30%の日があってもいいから継続することを心掛けています。

力士になってすぐの頃は、力が衰える前に引退したいと考えていました。でも、力士として決して若くない年齢となった今は、心の底から「引退しよう」と思えるまで現役を全うすることが目標です。そんな私の姿を見て、ふるさと鶴岡の仲間や後輩が自分も頑張ろうと思ってくれたらうれしいですね。

▽「契約しないと高額な罰金が科される」という話を持ち掛け、商
尋ねてきた
▽「同制度の導入に伴い、個人情報
報を調査中だ」という女性が自宅
に来て、保険の契約状況や資産を
尋ねてきた

▽「同制度の導入に伴い、個人情報
報を調査中だ」という女性が自宅
に来て、保険の契約状況や資産を
尋ねてきた

A すぐに応じず、家族や相談
窓口に相談してください

10月5日にマイナンバー制度が
始まりましたが、電話や訪問、郵
便、メールによる個人情報取得
や不正な勧誘など、次のような詐
欺が全国的に発生しています。

Q マイナンバー制度に便
乗した詐欺について

声
voice
市への意見や質問、広報を読ん
での感想などをお寄せください。
◎送り先 本所総務課
☎25-2111内線316